

各部の名称と適応板厚



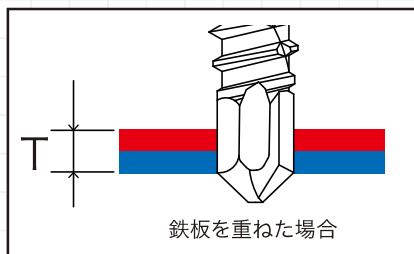
【削孔板厚】

①標準タイプのドリルねじ（リーマ付きドリルねじ以外）

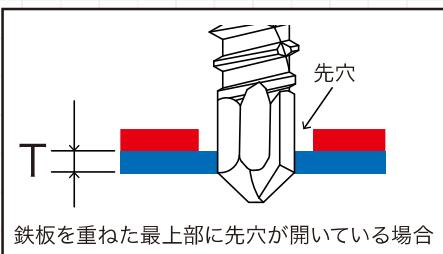
呼び径	呼び長さ	適応板厚
3.5	10	~1.6t
3.5	13	~2.3t
4.2(4)	10	~1.6t
4.2(4)	13	~2.3t
4.2(4)	16~	~3.2t

呼び径	呼び長さ	適応板厚
4.8(5)	13	~2.3t
4.8(5)	16	~3.2t
4.8(5)	19~	~4.0t
6	19	~3.2t
6	25~	~6.0t

削孔板厚(T)は下記の通りとする



鉄板を重ねた場合



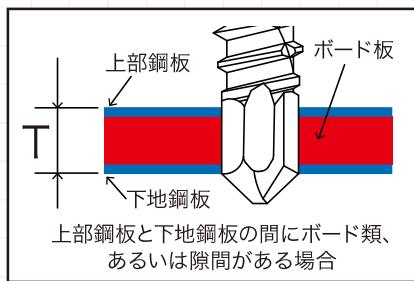
鉄板を重ねた最上部に先穴が開いている場合

上部鋼板の板厚+下地鋼板の板厚=削孔板厚(T)

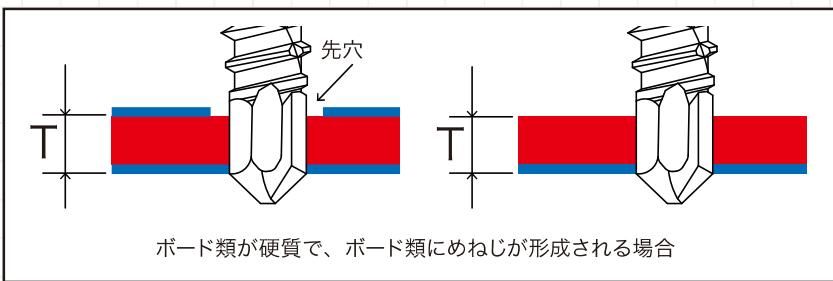
$t_1 + t_2 = T$ 例 /0.6t+2.3t=2.9t ねじの呼び径は、4.2×16 以上、6×19 以上を使用

上部鋼板に先穴が空いている場合は、下地鋼板の厚みを順応鋼板と考える。

$t_2 = T$ (上部鋼板の板厚は無視しても良い)



上部鋼板と下地鋼板の間にボード類、あるいは隙間がある場合

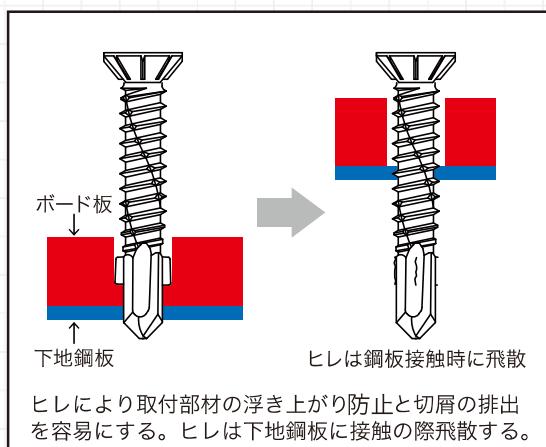


ボード類が硬質で、ボード類にめねじが形成される場合

②リーマ付きドリルねじ

リーマ付きドリルねじを使用することで、取付部材の浮き上がりが無くなり、最大の働き長さが適応板厚の上限になる。

注) リーマ付きドリルねじのヒレは鋼板に接触の際、飛散することからリーマ付きドリルねじの使用はボード類や木質材を取り付ける場合に限定される。



ヒレは鋼板接觸時に飛散
ヒレにより取付部材の浮き上がり防止と切屑の排出を容易にする。ヒレは下地鋼板に接觸の際飛散する。